

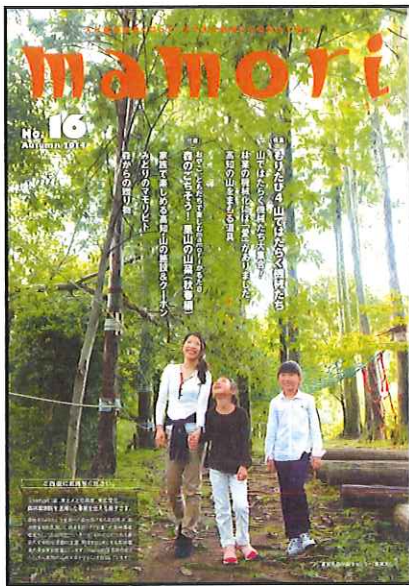
第49回（平成26年度）林業関係広報コンクール 受賞作品審査講評

審査委員会事務局

第49回林業関係広報コンクールにおいて、広報誌部門では「森林環境税情報誌 mamori」（高知県林業振興・環境部林業環境政策課）が、ホームページ部門では「森の活人」（秩父地域森林林業活性化協議会／埼玉県）が最優秀賞（林野庁長官賞）に選ばれました。

● 広報誌部門最優秀賞

「森林環境税情報誌 mamori」（高知県林業振興・環境部林業環境政策課）



「森林環境税情報誌 mamori」

表紙が手に取りやすい雰囲気雑誌感覚で読める広報誌です。企画が充実していること、ターゲットである子育て世代の女性やその家族向けにしっかりデザインされ誌面の完成度が高いこと、付録にカルタをつけて興味を引く工夫があることなどが高く評価されました。

● ホームページ部門

「森の活人」（秩父地域森林林業活性化協議会／埼玉県）



「森の活人」

サイトのデザインが良く、閲覧者の視点に立ったやさしく分かりやすい文章で親しみやすさが伝わってくるホームページです。地元で頑張っている林業関係者へのインタビュー記事を多く掲載していること、幅広く深い情報を発信して地域材の利用促進、さらには地域の林業を盛り上げていることなどが高く評価されました。

以下は審査員からのアドバイスです。

■全体への講評■

[広報誌部門]

- ・本文の縦組み、横組みの混在が多いと読みにくくなります。
- ・読者は見開きで広報誌を読むので、1頁単位でとらえて制作するのではなく、左右の頁の統一感がほしいです。
- ・長い文章には小見出しを入れると良いです（本文だけの記事があります）。
- ・行事の報告だけでなく、執筆者の顔が見えるような、読者参加型の要素も必要です。
- ・「取り組み」、「取組」など、表記がばらばらならにないように統一が必要です。
- ・チラシや広報誌用の陳列棚は、冊子の上の部分だけが少し見えるように並べられていることが多いので、その部分（タイトルまわり）のデザインが重要です。

[HP部門]

- ・ホームページは、広く一般に開かれた媒体であるため、近年はルール（J I S）が作られています。これに準拠してホームページを作るとよいでしょう。（詳しくは別紙）
- ・トップページで、どのようなサイトなのか、はっきり分かるようにすることが大切です。
- ・記事ごとに更新日時を表示すること。いつの情報なのか分かることが大切です。
- ・基本情報は本サイトに置いておいて、フェイスブックやツイッターを併用して最新情報の更新を行うところが増えています。
- ・スマートフォンからアクセスしてもサイトのフォーマットが崩れない、スマートフォン対応型サイトの出品もありました。

[広報誌・HP 両方の媒体を持っている方へ]

- ・広報誌とHPのコンテンツを別々に考えるのではなく、共有できる部分は共有したり、連携させたりすることで、より質が高まり、発信力も高まっていくでしょう。
- ・広報誌をwebで公開して、より多くの人が見覧できるようにするのも良いと思います。

以下は、審査委員会で出された受賞作品の講評の要旨を事務局がまとめたものです。

■広報誌部門

○最優秀賞

「森林環境税情報誌 mamori」 高知県林業振興・環境部林業環境政策課

表紙が手に取りやすい雰囲気雑誌感覚で読める広報誌です。企画が充実していること、ターゲットである子育て世代の女性やその家族向けにしっかりデザインされ誌面の完成度が高いこと、付録にカルタをつけて興味を引く工夫があることなどを高く評価しました。

○優秀賞

「日本山岳会『高尾の森』通信」 日本山岳会「高尾の森づくりの会」(東京都)

情報が充実し、読ませる工夫がされていて素晴らしいです。事務局だけで作っている会員誌が多い中、本誌は執筆(投稿)会員も多く、デザインは会員の方ががんばっていて、印刷も法人会員が協力していて会のみなさんで作っていることが伝わってきます。HPと合わせて多くの会員のコミュニケーションメディアになっていると思います。

○優秀賞

「やまびこ」 信州上小森林組合(長野県)

料理やクイズ、竹製品づくりなどの一般の人が読みやすいコーナーがあり、平易な文章と多くの写真により、「どの年代にも分かりやすく読みやすい紙面づくり」が意識されていることが分かります。さらに改良するには、「イベントや研修に参加した人の声を入れる」「写真には簡単なキャプション(説明文)を付ける」などの工夫をするとよいでしょう。

○奨励賞

「林業やまなし」 山梨県林業改良普及協会

きちんと丁寧に編集されています。文章も分かりやすいです。情報、写真が多くて良いです。できれば、「はじめに・おわりに」などの紋切り型の小見出しを改めて、内容が分かる具体的な文言の小見出しにすると良いです。また表紙が二色刷りなので、裏表紙も二色にできるはずですが。特集記事、コラム等の企画があるとより良くなっていくのではないのでしょうか。

■ホームページ部門

○最優秀賞

「森の活人」 秩父地域森林林業活性化協議会(埼玉県)

<http://morinokatsujin.com/>

サイトのデザインが良く、閲覧者の視点に立ったやさしく分かりやすい文章で親しみやすさが伝わってくるホームページです。地元で頑張っている林業関係者へのインタビュー記事を多く掲載していること、幅広く深い情報を発信して地域材の利用促進、さらには地域の林業を盛り上げていることなどを高く評価しました。

○優秀賞

「森と水の郷あきた」 あきた森づくり活動サポートセンター（秋田県）

<http://www.forest-akita.jp/>

更新回数が多く、情報も満載で素晴らしいです。秋田の森・山村、山野草などに興味のある人にとって貴重な情報源になっていることが、アクセス数の多さから伝わってきます。一方で、初めてアクセスする方に向けてサポートセンターとは何をやっている団体なのか（モリエールあきたとは何？）、何を紹介するページなのかを分かりやすく示してあげると良いサイトになると思います。

○優秀賞

「『NPO法人ひょうご森の倶楽部』のページ」 NPO法人ひょうご森の倶楽部（兵庫県）

<http://hyogo-morinoclub.jp/>

特定の担当者だけでなく、約 20 人のメンバーでサイトを更新する体制づくりをしていて、更新頻度も高いです。みんなでサイトを充実させていく、その姿勢を高く評価しました。活動報告は SNS で行うところが増えている中、ここは本サイト内で頻繁にアップしていることに注目しました。文章がよりやわらかくなると、さらに親しみが増して良くなるでしょう。

○奨励賞

「バイオマスツアー真庭」 一般社団法人 真庭観光連盟（岡山県）

<http://www.biomass-tour-maniwa.jp/>

バイオマスツアーだけに絞ったHPを作り、しっかり維持していることを高く評価しました。バイオマスだけでなく、地域の歴史や一連の活動、他のツアーや観光も紹介している点も良いです。文字サイズ変更、プライバシーポリシーなども用意されています。体験者の声の更新がもっと増えると良いと思います。どの記事にも作成年日をつけると良いでしょう。

第49回審査委員（敬称略）

東京農工大学教授 土屋俊幸

日本広報協会常務理事 渡邊昭彦

全国森林組合連合会組織部長 佐々木太郎

全国林業改良普及協会専務理事 渡辺政一